

おはなしをつくる

「子どもたち」

てね」

たくみ前へ出て来る。

たくみ「二匹の小犬がいました。ある時、二匹の小犬がミルクを飲んでいました（第一日目はここまでつくる）。そこへブルドックがやってきました。ブルドックが小犬をいじめました。二人で力を合わせてブルドックをやつつけました。おかあさんにあやまつて（小犬のおかあさんに、ブルドックがあやまつたの意）三人でミルクをのみました。夕方ブルドックが自分のおうちへ帰って行きました」



先生「きのうはここまでだったわね、じゃ今このつづきできる？ そう、してちょうど

い」

たくみ「また、ブルドックと二匹の小犬があそんでいたら、隣りの犬がいじめたので、ブルドックがやつつけました」（ブルドックと二匹の小犬が仲良くなり、ブルドックが二匹の小犬のために恩返しをする、と発展している。）

先生「たくみちゃんが毎日お話をつくっているの。今日つづきしてくださる？『二匹の小犬』っていうのね。みんなのお話をききに来てくださいた先生（記録者のこと）にわかるように最初からしてあげ

先生「たくみちゃんが毎日お話をつくっているの。今日はつづきしてくださる？『二匹の小犬』っていうのね。みんなのお話をききに来てくださいた先生（記録者のこと）にわかるように最初からしてあげ

さとし「自動車にのってお出かけしました。おりたらまいごになつ

◇一〇時三〇分

先生「たくみちゃんが毎日お話をつくっているの。今日はつづきしてくださる？『二匹の小犬』っていうのね。みんなのお話をききに来てくださいた先生（記録者のこと）にわかるように最初からしてあげ

てしましました。自動車にまたのつておうちへ帰りました。牛乳と

ジュースを飲んでねました。朝になって目がさめたら外に自動車が

いっぱいありました（昨日はここまで）。

「今日は、自動車がたくさん来て、行くところがなくなつたの。都電

が来て自動車をとばしていつちやつた」

先生「どうもありがとうございました。きのう帳面にかいたお話をみんなでみまし

ょう（たて十二・七センチ、よこ十七センチの薄地の画用紙を二つ

折りにしてホッチキスでとじた帳面に鉛筆でかいたもの、絵だけの

もの、絵とお話のあるもの、絵とお話の題をかいしたものなどいろいろ

る。よいこのほんと表紙にかいてあるもの、裏表紙に、えほんにあ

るよう名前をかく欄のあるものもある）。やすこちゃんは絵だけか

いてあるの、二匹のねこがいました、女のねこと、男のねこがあそ

んでいました」（昨日子どもが先生に話したものらしい）

子どもたち笑う。

先生は、チューリップが二つかれた次の頁をみせて「おかあさんチューリップと子どもチューリップがねていたの」次の頁の絵

をみせて「雪タルマがおこつたお話をすつて、何でおこつたのかしら？」

男児「ボールがつけたから」

男児「バットでぶつたから」

先生「やすこちゃんは？ 何でおこつたの？」

やすこ「野球のぼうでぶつたの」

先生「やすこちゃんも雪タルマがハットでぶたれたからおこつたんですつて、きのうこれ（帳面）をうちへ持つて帰つておじいさんやおばあさんやみんなにみせたら、みんなおもしろい、おもしろいってみたの。そしてこれはほしいなあっていうのよ。でもみんな大事な

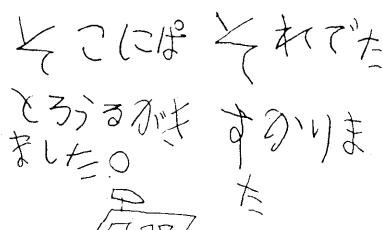
帳面だからといってまた持つて来たのよ（子どもたちにここして聞いている）。しょうこちゃん、『さかなつり』というの、しょうこちゃんよめる？」

しょうこ「じどうしゃがうちからはしつけてきました。そのじどうしゃにはたぬきさんがのつていてました。たぬきのおじさんはさかなつりにくつもりです。川につきました。たぬきのおじさんはさつそくつつていました。つれたそつれたそつながつていてるぞ、八びきつれたぞ。それからじどうしゃにのりにもどつてうちにかえりました（句とう点はない、あとは原文のまま川と八が漢字）

きちんととした字で横書き。子どもの声が小さいので、先生が一節ごとに繰り返して読まれる。

やまかじ（先生がもう一つあるのですつてと声を入れられる）。やまかじになりました。そこにしようとしゃがきたのでやつとたすかりました。そしてしようとしゃがしゃこにかえつていきました。ビルがかじになりました。しようとしゃがまたしゃこからとびだしました。それからビルをおばけやしきにして、ビルのしと

よいこのくに
しようとつけん



たちはちがうビルにひっこしをしました（おわり）」（句とう点を除いて原文のまま、ビルはかたかな、最初の頁に自動車の絵があるだけ、後は字のみ）

先生「かずちゃん、しようとつけんというの、先生がよみましょうね。（第1回参照）おうちがありました。そこにじどうしゃがぶつかってしまいました。そこにぱとろうがきました。それでたずかりました。それでみんなのしくくらしました。

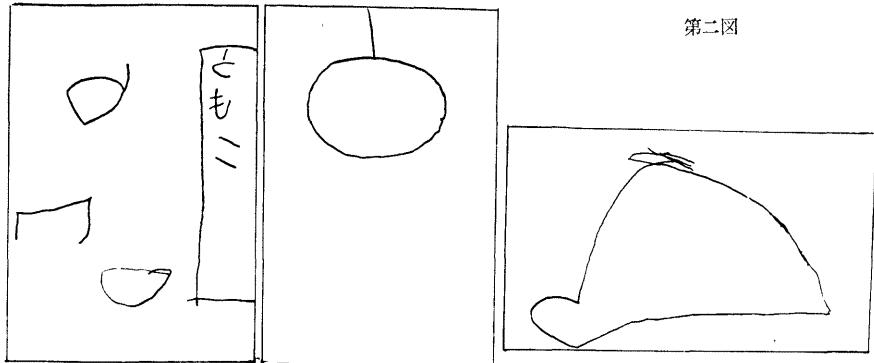
次はどうちゃんとともこちゃん（第二回参照）のは絵だけだけど、こういうお話をすて、リンゴが坂道をコロコロコロころがって行きました。ともこちゃんがリンゴの後から追いかけて行きました

たでもリンゴの方が早くただいまと先に帰つて来てしまいました」と一同笑う。

先生「この坂道はきっと駿河台の坂道ね（ともこうなずく）。駿河台の坂の上の八百屋さんから、リンゴがともこちゃんのおうちまでころがったのね（ともこうなずく）。ともこは三才未満、四年保育児、最近入園）。おかあさんびっくりしたでしうね（一同笑う）。じゃ、今度は先生のつくったお話をきける？」

みんな元気よく「うん」という。うれしそう。先生はノートをみながらお話をされる。スピード君というの（二人の女兒折紙をとりに行きおり始める）。タロウちゃんのおもちゃ箱でスピード君がひとり

第二図



ごとをいいました。スピード君はとてもスピートのでおもちゃの自動車でした。……」

タロウちゃんが幼稚

園へ行くようになったので、スピード君あそんでくれる人がいなく

てたいくつしていた

どうどうスピード君はひとりで散歩に行くこ

とにした。ねこのミイ

ヤをひきそそうになったり、えんがわから庭へガッタンとついいらしく

たりしたが、げんきな

スピード君はだいじよ

うぶ。庭じゅうぐるぐる走りまわっている

と、「スピード君」と金魚のヒラヒラに声を

かけられ、とうとう、金魚のヒラヒラとおおぜいのヒラヒラの友だちをのせて池の中を走ることになった。ブーブーブクブクブクブク、ブーブーフクブクブクブク。「わーい。ゆかいだなあ」「スピード君はんざい」金魚たちは大はしゃぎ、スピード君もすっかりゆか

いになつたというお話(要約)。

子どもたちは、ブーブーブクブクブクブクというところと、ドボンと池へとびこんだというところで声をたてて笑う。

◇一一〇〇

先生「またきのうのようにお話をかいてください?」といいながら、昨日と同じ大きさの新しい帳面を配る。帳面が輪のままになつている

「ハサミで切つてちょうだい。どこ切つていいかわからない人は、わかる人に教えてもらつてね」ドンドン切つてゆく子、「どこ切るの?」と友だちにきく子、「ここ切るの?」ときく子などいろいろ

いろ

◇一一〇五

子ども「かいていいの?」

先生「どうぞかいてください」

◇一一〇八

ともこ、リンゴとうちをかいだと出しに来る。うちはただ四角がかいてあるだけ。

先生「きょうはともこちゃんにあげるわ」と帳面をともに渡す。

楽しそうに話をしながらかいている子、だまつてかいている子。

先生「すんだら、運動場つかっているから講堂であそびましょう」

とも子、机の上にあがつて運動場みる

男児「ああ机の上にあがつてている」

先生「おりる、すぐおりるわよ　おりこうだもの」とも子おりる。

ひとりで笑いながらかいている子、話しながらかく子、一同いつ

しょうけんめい。

◇一一・一五

女児（四年保育児）帳面を持って来て「お花がころころところが

つたの。（花がかいてある）ど、へとくと「おうちへ」と説明し

てくれる

先生「あなたにあげるわ、ともこちゃんとあそびましょう」

次々とかけた子が説明に来る

男児（五才）「おうちに車がぶつかったの。そして救急車が来た

の」さつき読んだお友だちのお話のまねが多い。

先生は、人のをまねしますが本当のものができる過程としてよい

と思っていますと話してくださいました。

また、画用紙のような大きい紙を与えても、お話はかいてくれな

いとのこと。「鉛筆と、小さい紙の方が書き込みやすいらしいので

すよ。本当の絵の時は、大きい紙を与えますけど。同じような絵を

かいていても、こっちはお話と意識してかいているのですね」と話された。

◇一一・三〇

先生「給食の時間になったからつづきはまたしましょう」半分以上

の子はかき終っていた。

食事中は「わたしはタマコが好き」「ぼくは何が好き」と食べ物

の話。「夜は暗い、朝は？」自動車は走る、飛行機は？ ライオン

は強い、うさぎは？ おとうさんは男、おかあさんは？」と知能テスト

トの本を覚えて来て（父親に問題を出された由）友だちに問題を出す男児、「第一チャンネルの何時は何だ」とテレビの話をする女児、

グルーブごとに楽しそうに話がはずむ。

食後砂場の数人のグループをみていると、みんなが砂のおだんご

をつくっているが、「おだんご大会にしようか」「大きいのが一番に

しようか」大きいのと小さいのを一番にすればという先生の提案

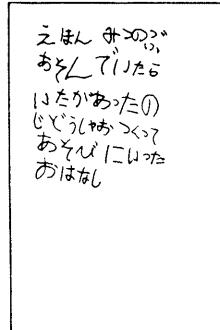
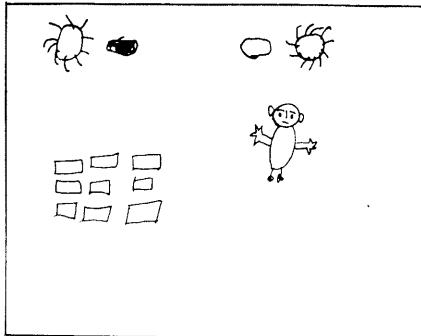
に、「これはハカハカ賞にしようか、これは何賞にしよう」と楽し

そうに話が発展。テレビを思い出出して「これ時限爆弾だよっておに

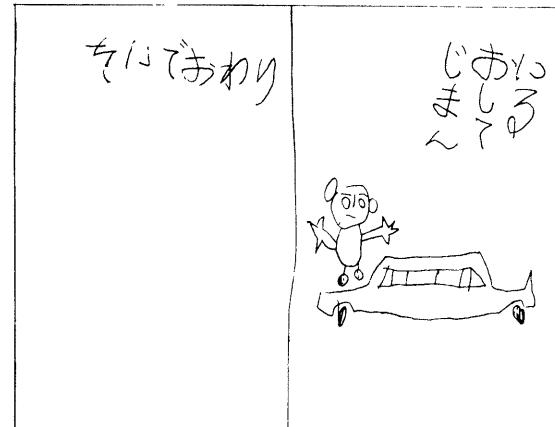
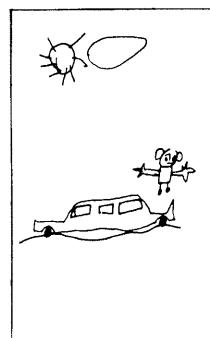
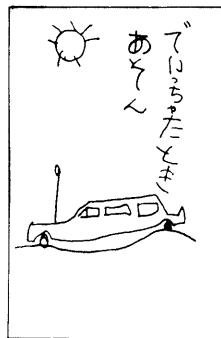
ぎり渡したのに、ちつとも爆発しないのな、ほんとのおにぎりだつ

たのな」と話している子もある。

◇ 子どもたちが二時に帰つてから、御用のある村山桂子先生と、十分ばかり立話をしました。



第三図



◇子どもにお話をつくらせる目的

皆の前でしゃべること、つくる意欲をもたせる二つの一つです。内容は不完全ですが、右のことができればよいと思っています。つでも良いものができたときは皆の前で発表し、みんなの中から生まれたのだと一しようと喜びます。そうすると、人前で話のできない子まで話がしたくてしようがなくなります。

◇ たいへん小さい子もいるようですが。

この組は二年保育、三年保育、四年保育の混合で、四年保育児が四人ばかりいます。毎月のように新しい子が入りますので、なかなかクラスとしてまとまりません。また年令差がありますので、クラス全体でつづき話をつくるなどということができません。

◇ 初めて子どもにお話をされた五月から、このように子どもたち自身がお話をつくるまでにどんな苦労をされましたか。

別に特別なことをしません。毎日お話をきかせるようになつたのも今年になつてからです。夏に男の子たちが、何人も犬のたくさんついた洋服を着て来たのですから、あの、犬の洋服の話がピッタリの感じに思えたのでその話をしたら（いつもいばつっているのでみんなからきらわれている男児が、犬がいっぱいいてある新しい洋服を着て幼稚園に来た。いばつ正在と、犬がみんな洋服からとび出して逃げ出した。たすけてくれと叫んだところ、お友だちがみんなで犬をつかまえてくれた、男の子がありがとうといった話）、みんな大喜びで、それからお話を興味をもち始めました。

◇ 字がよくかけますね。

自然に覚えてかいているようです。強制していません。

◇ 動物が一匹になつたり、ひとりになつたりしていますね。

ええ、自分と同じように感じているところではひとり、ふたりといつています。その方が親しみやすくぴたりくるのでしょうか。動

物は何て数えるのといえば一匹、二匹といいますが、これは何も注意しないでそのままにしています。

◇ 毎日お話をつくっている子は何人もいるのですか。
特に好きな子だけで何人もいません。まだ思いついたことを並べるだけでお話になつていらない子が大部分です。

◇ 「さかなつり」のお話は、四才児にしては字もしっかりしているし、「さつそく」などということばが使われていたりして驚きました。「つれたぞ、つれたぞ、つながつてているぞ、八びきつれたぞ」というところでは、きいている子どもたちも喜びましたが、たいへんおもしろいお話でした。「それでみんなのしくらしました」と結ぶ「しようとつけん」では、いかにも楽しそうな絵がかかれています。ほとんど絵ばかりのものも、「じまんをしている」などという説明にびったりの絵がかかれています（第三図参照）。たいへん楽しい半日を過させていただきました。

○ 幼児教育講習会

（主催 日本幼稚園協会）

会期 昭和38年7月22（月）～25（木）の4日間

午前の部（9時～12時） 午後の部（1時～4時）

会場 お茶の水女子大学講堂及び体育館